

国語 第4学年 題名の持つ意味について考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の9月～10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

題名に関わる言葉が現れる場面を比べ、人物の気持ちや情景の変化から題名の意味を考える。戦争について知っていることだけで説明せず、物語の前半と後半に書かれた暮らしや行動に戻る。単元の終わりに残すのは、題名を考えるメモ。前後の場面の言葉、人物の気持ち、情景、そこから考えた題名の意味を記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)エ	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

単元の目標

言葉が人物の思いや考えを表す働きに気が付き、題名に関わる言葉を確認められる。人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えられる。言葉の働きを確認め、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉が人物の思いや考えを表す働きに気が付き、題名に関わる言葉を確認めている。〔知識及び技能〕(1)ア)	①「読むこと」において、人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えている。(C(1)エ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全10時間（読む10）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、題名への初めの考えと時代の語句を確認める。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3～4	○前半の暮らしと人物の行動を読み、気持ちを想像する。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○後半の暮らしと情景を読み、前半との違いを確かめる。	学習状況を見て支援する。
	7 （本 時）	○題名に関わる言葉を前後で比べ、気持ちや情景との関係を説明する。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○題名の意味について文章を書き、根拠を読み合う。	学習状況を見て支援する。
第3次	10	○初めの考えと比べ、場面を関係付けて読んだことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」 【めあて】 題名に関わる言葉が現れる場面を比べ、人物の気持ちや情景の変化から題名の意味を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも場面が変わると感じ方が異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも場面が変わると感じ方が異なる。 ・暮らしの違いから人物の思いを想像できる。 ・花の描かれ方が題名を考える手がかりになる。	前半と後半の暮らし、行動、情景を対応させる。時代の語句は必要な範囲で説明し、その知識で本文にない気持ちを断定しない。題名への答えは根拠を付けて複数残す。 想定する難しさ：戦争はよくないという一般論だけになる。題名が示す物を答えるだけで意味を考えない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えている。（発言と学習記録）
まとめ (分)	【まとめ】 今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・花の描かれ方が題名を考える手がかりになる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童

の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、戦争はよくないという一般論だけになる。題名が示す物を答えるだけで意味を考えない。この場合は、前半と後半の暮らし、行動、情景を対応させる。時代の語句は必要な範囲で説明し、その知識で本文にない気持ちを断定しない。題名への答えは根拠を付けて複数残す。おおむね満足できる状況は、人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

題名を考えるメモ。前後の場面の言葉、人物の気持ち、情景、そこから考えた題名の意味を記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_4_202401.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

